

活動の柱

- 1 青少年の体験活動の促進
- 2 青少年団体の育成と支援
- 3 青少年に望ましい地域づくり
- 4 青少年に関する相談と対応
- 5 青少年に関する調査と情報提供



神奈川県青少年指導員だより

第53号

- 2015年9月 -

発行 神奈川県青少年指導員
連絡協議会
発行者 石井一也
連絡先 045-210-1111(代)
神奈川県青少年課内
印刷 文一堂印刷株式会社
045-231-1931

平成27年度 「青少年の健全育成を進める県民大会」

平成27年7月11日(土)県立青少年センターにおいて、「青少年の健やかな成長を支える地域社会づくり」をテーマに、青少年の健全育成を進める県民大会が開催されました。

◆オープニング

横浜市立南高等学校の生徒さんの司会進行で、大会が始まりました。オープニングセレモニーの県立金沢総合高等学校のダンス部の皆さんの演技は、「目指せ、グランプリ! 見ている方に感動を!」という目標のとおり、いきいきとした素晴らしいもので、大会に華を添えてくださいました。



県立金沢総合高等学校ダンス部の演技

◆基調講演

昭和女子大学特任教授の興梠 寛 氏を講師に迎えて、「必要とされることの意味」をテーマに、講演が行われました。興梠氏は、「青少年は、必要とされて初めて、大人になれる。」と語られました。また、「青少年が、ボランティア活動をとおして社会に貢献することで、学ぶことの意味と喜びを実感し、生きる力が育まれ、自分で判断ができる大人になれる。」と強調されました。

そのためには、「青少年が、自己肯定感を養えるような居場所やチャンスを、私たち大人が作り出していくことが大切である。」と結ばれ、講演は終了しました。

◆パネルディスカッション

日本大学教授の佐藤 晴雄氏の進行により「自分らしい社会参加とは」をテーマに、興梠氏と県立釜利谷高等学校教諭の穂積 啓之氏、日本大学高等学校の生徒さん二人をパネリストに迎え、パネルディスカッションが行われました。

- ・穂積氏は、「SSE(ソーシャル・スキル・エデュケーション)や釜利谷サポートチーム(校内ボランティアチーム)の取組により、生徒自身に自己有用感や自尊感情が育まれ、良好な人間関係を築けるようになってきている。」との報告がありました。
- ・生徒さんは、意味ある他者になれた体験を語られ、「ギャップイヤー(すき間の1年)の導入など、青少年が社会参加ができるような地域社会であれば、青少年が、自らの意思で自分らしい社会参加ができるようになるのではないか。」との投げかけがありました。
- ・興梠氏は、「青少年が生きる力を育むには、青少年同士でボランティアを計画し、社会参加していくことが大切で、私たち大人は、社会参加しようとする青少年を、もっと応援していけるような地域社会にしていかなければならない。」とお話されました。会場からは、青少年自身でボランティアを計画する場合の工夫の仕方や、コミュニティ・スクールについて、熱心に質疑応答が交わされました。

パネリストの話を受けて、佐藤氏は、「青少年が自分らしい社会参加をするために必要な4つの支援」を挙げられました。

- 1 情緒的支援 (話を聴いてあげる、共感してあげる、挨拶する)
- 2 物理的支援 (物や場所を提供してあげる)
- 3 情報 (社会参加の情報を提供してあげる)
- 4 評価的支援 (良い事は誉めてあげる、悪い事は指摘してあげる)

「私たち大人が、青少年に手を差し伸べることで、青少年は自分らしい社会参加ができるようになるでしょう。」と結ばれて、パネルディスカッションは終了しました。



講演の様子

◆おわりに

かながわ青少年社会環境健全化推進会議の石井会長の閉会の言葉により、大会は終了しました。